

苦小牧市医師会

医師

吉田 栄一

高血圧と頭痛

高血圧に頭痛が伴うことがあります。血圧と頭痛との関連性についてはむずかしい問題があります。頭痛は、ある程度血圧が高くならないと起こりません。ですから高血圧の人がすべて頭痛が起こるといいうわけではありません。

その限界圧として収縮期圧が二一〇mmHg、拡張期圧が一〇〇mmHg以上の場合に、血圧と

血圧を下げ、治療できる

関連した頭痛が起こるといわれています。これらは血管の拡張が頭痛を起こすわけです。

高血圧の場合は、通常寝ている姿勢から起き上がったとき、あるいは起き上がったとき、ひよっと立ったときに頭痛を感じます。そのときに血圧が上がっていることが証明されています。起き上がったって運動を始めるとか歩き始めると、すーっとお

さまります。そのときは、血圧が少しずつ下がってきていることが証明されています。こういう形が高血圧の頭痛の特徴です。

そのほか、血圧は常に一定であるわけではなく、日内変動があつて、朝、昼、晩と変動します。その変動の仕方は、朝方がわりあい高く目覚め、動き回るることによって少しずつ高くな

り、午前十時ごろに最も高くなつて、そのあと少しずつ下がりはじめます。午後は比較的低い状態が続きます。就寝前は、朝より低くなります。そして午前二時から四時くらいが最も低い状態になります。六時ごろから徐々に上がり始めて、目覚めると同時に高くなります。このときに高血圧の人は頭痛が起こります。つまり、高血圧の人の頭痛は朝

起こりやすいわけです。
高血圧の場合の頭痛は、血圧を下げることによってかなり治療できます。



お問合せは、苦小牧市医師会

電話 33 14720